

2009年5月12日付け 「中新ネット」より

湖北省各大学がそれぞれ四川汶川大地震一周年を記念活動を行う

5月12日、湖北省恩施市の湖北省民族学院の教員と学生らは同学院内の学生広場において、5・12地震一周年の記念活動を行った。この活動では、無償の献血、愛のメッセージ、写真展及び署名運動などが行われ、多くの学生が5.12大地震への追悼の意を表すとともに、被災地域に住む人々の幸福と、美しいふるさとの一刻も早い再建を祈った。

また5月11日夜には、華中師範大学の有名な心理カウンセリングの専門家である汪海燕教授の四川汶川大地震一周年記念講演会が同学院にて行われた。災害後のメンタルサポート計画を紹介する中で汪女史は、「安住するということは、生活の基本であり、安住を確保できてこそ、安心することができる。家を失った人々に安住の地を提供する時、我々は彼らに対して、尊敬と寛容の念をもつことが重要であり、また実は胸が張り裂けそうなほど泣くということは、彼らの悲しみを和らげる良い方法なのです」と述べた。

5月12日、中南財經政法学院の李曉燕教授は、地震一周年のために「汶川が飛び立つ 汶川大地震一周年祭」という詩を作った。この詩には「365日の日が昇り、太陽が沈んだ。わが故郷汶川は、いつも私の心の中にある。かつて5月といえば輝いていた季節であったが、今は汶川大地震のため泣いている。あの一瞬で亡くなった命は、崩れた大地で永遠に生きていく。空を仰いで聞いてみる—ああ、私の家族よ、天国に花は咲いていますか。大地に向かって呼びかけてみる—ああ、我が子は大切なテキストをもっていきましたか。………」と詠われている。

武漢科学技術大学中南分校商学院の国際経済と貿易を専攻する2009期学生の葉鳳英さんは、対外貿易を行う企業に就職することを希望している。2008年末に同学院のカリキュラムが終了した後、彼女は上海の対外貿易企業に就職する予定だったが、今年4月に重慶市の自動車業界の対外貿易企業でインターンシップをすることを選んだ。「両親の体調はあまりよくないので、帰ってもっと両親のそばにいたい」と話した。

葉鳳英さんは2008年5月12日まで映秀鎮に住んでいたが、現在は都江堰に引っ越した。両親は今も果物の販売をしている。彼女はすでに5月16日発武漢行きのチケットを予約しているが、卒業論文の口頭試問のための準備も怠らない。「卒業前の最後の授業をしっかりと準備し、

一所懸命に仕事に励むことが、私の社会に対する最善の恩返しだと思います」と彼女は話した。



2009年5月15日付け 「長江ネット」より

武漢市生活保護受給者で住宅政策の恩恵をうけていない層の住宅問題が解決可能

武漢都市部の1.5万人の生活保護受給者で、住宅政策の恩恵をうけていない層について、3年以内に一人の漏れもなく、住宅問題が解決される望みがある。

これらの人にとっては、たとえ20万円の廉価住宅でも、望んでも手に入らないものである。

昨日、記者は武漢市住宅部門の情報により、3年以内に武漢市政府は1.5万戸の住宅を建築し、都市部で最も貧困の家庭から住宅を割り当てることにより、すべての住宅問題の解決が可能である。そのうち、今年、武漢市は10億元を投資し、5,753戸の住宅を建て、住宅政策の恩恵をうけていない層に提供する。中心部では5,000戸、郊外で753戸を建てる計画である。

情報によると、廉価住宅を建築する経費については、主に財政支出・土地譲渡金・基金の運用収益から支出する。廉価住宅として使う住宅は主に経済住宅を買い取る。